



ORIENTEERING JAPAN

JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

94/5

1994年〔平成6年〕5月10日発行

(毎月1回10日発行)

第11巻第5号通巻第130号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



冠山林道

～緑と清流の里～
 広島県佐伯郡吉和村
 1994.4.3(日)

広島オリエンテERINGクラブ 発足20周年記念地図 No.2

制作作成：広島オリエンテERINGクラブ
 発行期間：1993年3月～1994年2月
 テレイン測定 山本 悠

- 調整者
 名 正善 三好 正夫
 下江 敏子 ♥ 奥津 八十
 望野 昌昭 坂田 雄規
 美藤 勝子 ♥ 唐一
 太田 尊彦 榊田 功
 尾川 正洋
 天原 寿夫 (福山OJLO)

作図者
 太田 雄司 (No.4)
 印刷 広島中野印刷株式会社
 1994.3.2,000P

縮尺 1:15,000
 等高線間隔 5m



全ポスト
 47

この地図は2000年11月
 完成

[本誌掲載のため約76%に縮小]
 ※位置説明表は付録の
 オリエンテERINGカレンダー
 裏に掲載。

自動車専用道路	郵便専用道路	郵便専用道路(郵便、学業)	民家等の敷地(立入禁止)
主要道路	地蔵、土蔵(通行可)	地蔵、土蔵(通行不可)	崖線
道路	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	立入禁止(通行可)
道	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	立入禁止(通行不可)
小道	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	開けた草地
小径	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	木のある草地
切り開き	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	竹林、樹林地
トンネル	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	通行可能
橋(通行可、不可)	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	通行困難
渡り、架橋	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	通行困難
石橋、架橋(立入禁止)	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	開けた土地中の立入禁止
石橋、架橋(立入禁止)	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	立入禁止
石橋、架橋(立入禁止)	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	立入禁止
石橋、架橋(立入禁止)	まき、杉、松、杉、松、杉	まき、杉、松、杉、松、杉	立入禁止



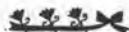
- =スキーオリエンテーリング世界選手権=.....4,16
「イタリア開催は大成功」
- =イベント・レポート=5-7
「広島OL協会設立/広島OLC発足20周年記念大会」
運営：三好 正夫 参加：財間 定義
「まどかの大会参加記=奈良県OL選手権大会」黒木まどか
- =書籍紹介=8
「村越 真の実践オリエンテーリング講座」
「香港ジュニア合宿への援助のお願い」
- =森の豆知識=9
「②森林の所有者」
- =全国PC愛好会のページ=10-13
「パーマネントコース・レポート」
大高 竜亮/窪田 宏明/室井 孝介/吉田 勉
- =日本オリエンテーリング競技規則=.....14-15
「IOFオリエンテーリング基本規則」
- =お知らせのページ=16
「連絡協だより」「情報あれこれ」

□ □ □

■写真(上) 4月2日, 広島県大会前日に行なわれた, 村越 真氏講演会の模様。

(下) 翌日の大会後に行なわれた反省会の様子。

[いずれも広島OLC・三好正夫氏提供, 記事は 5-6ページに]



■今月の表紙：4月3日, 広島県吉和村で開催された広島OL協会設立/広島オリエンテーリングクラブ発足20周年記念大会兼広島県大会より
[三好正夫氏提供]

■今月の地図：同じく広島県大会の使用地図=全ポスト図。位置説明表は付録 リザルト・フロッピー面に。
[島根OC・財間定義氏提供]

□ □ □

STREAMER

五月, 連休も後半。樹々の若葉に朝の光りが映え, 鶯の清んだ鳴き声が響きわたる。爽やかという言葉が最もびったりとくる時季, ナップザックを背に, 標高雑800-1000メートル, 雑木林に囲まれた林道を走る, 歩く, 思う, 考える。内閣が変わり予算は何とか決まるものの, その後が不透明。「改革」を標榜している内閣には, 政治改革の更なる前進や, 税制改革はともかく, 私は「行政改革」に最も期待したい。企業がリストラで血を流している昨今, 中央・地方を問わず各省庁や行政機関, そして外郭団体の予算の無駄づかいをチェックすべきであろう。オリエンテーリングの世界にも, 財団や基金からの補助があるようだが, はたして適正な使われ方が行なわれているのだろうか。全国指導者研究協議会や実践活動発表会はオリエンテーリングの普及や振興に役立っているのか。議事録や実践活動報告は公報されるべきである。そもそも指導者研究協議会などは, 以前行なわれていたように金曜~月曜までとはいかなくても, たっぷり時間をかけたコンベンションとすべきである。現状はほとんど事務局からの説明に終わり, 斬新なアイデアや真剣な討議はあまりなされていないと聞く(だから内容が公表されないのか)。時間や金が無ければ, 「懇親会」などは必要ない。その時間を「研究協議」に当てるべきである。あのS財団の源である船舶振興会でも大きな汚職事件があった。私たちの世界はマイナーでもよい, 小さくてもクリーンな組織であれば, 真にオリエンテーリングを愛する協力者はきっと現われるであろう。何でもかでも, さもしく補助金をねだらず, 叡智と努力, そしてハートを大切に。

流人

スキーオリエンテーリング世界選手権 イタリア開催は大成功

～タフな競技会、七か国がメダル獲得～

□国際オリエンテーリング連盟 (IOF) 発行
"ORIENTEERING WORLD" 誌より

イタリアはこの2月初めにその美郷ヴァレディノンで開催したスキーO世界選手権において多面にわたって大成功をおさめた。

前回のスキーオリエンテーリング世界選手権はほとんどスカンディナヴィア諸国によって支配された——が、今年は違った。フィンランド、ノルウェー両国ともメダル獲得数では高い位置を占めたが、ロシアも個人で2個を得、男子リレーでは3位に入った。イタリアのニコロ・コラディニが2個の金メダルで大きな印象を与え、ブルガリアもまたペバ・ミロシェバのクラシカル・レースでの素晴らしい勝利で初の金メダルを獲得、さらにエストニアのマレ・ヴァヘルは同レースで待望の銅に滑り込んだ。

3日間の好天のもとでの競技会——それは後にオリンピック・ゲームの一員としての資格を求めるに十分であることを示したトップレベルのスキーオリエンテーリングのデモンストレーションであった。今後数年間、スキーOが最優先であるべき根拠を広めたものであった。

この地方最大の町、クレスのチャーミングな中央広場で行われた開会式には地元の大観衆で埋まった。会場までの行進のあと、地元代表の何人かのスピーチから始まり、そしてIOF会長ハインツ・チューディン氏の開会宣言へと続いた。夕やみは、心に残るファイアワークを引き立たせ、開会式を完璧なものとした。

ロングディスタンス・レース
＝クラシカル・レース

このレースは技術的にも体力的にも厳しいものであり、長い上りや短い急激な下りは、クロスカントリースキーに慣れた競技者たちにとっても、ちょっと怖いほどであった。暖かい日中と凍るような夜を繰り返した2週間のあとでは、予想以上に雪は固く、ややアイスィーであ

り、技術チームはできるだけベストな状態に、走路をつくるため懸命に働いた。

林に囲まれた小さな野原に設けられた魅力あるゴール地区で待機する観衆や、100メートルほどの範囲内で暖かい飲食物を一日中用意する売店、そこには、レナ・ハセルストレムやアナ・ゼル(スウェーデン)らのラジオ・コントロール通過を知らせる声が響きわたっていた。しかし、彼女たちを含め早くスタートしていった何人かは、コース後半までその調子を維持することができなかった。それに対し、ラジオ・コントロールでほんの5位であったペバ・ミロシェバの後半のがんばりは、トップ・タイムのゴールまで盛り返した。2位のヴィルビ・ユティライネン(フィンランド)、そしてエストニアに初のメダルをもたらしたマレ・ヴァヘルも後半は素晴らしいタイムであった。

ハラルド・スヴェルジャ(ノルウェー)のタイムは男子のレース中ほとんどを支配し、同じノルウェーのラス・リスタドとロシアのウラジスラフ・コルムチチコフの2人に逆転されただけであった。しかし、最終スタートのニコロ・コラディニは第2ラジオ・コントロールでリスタドに遅れること僅か9秒差のラップを刻みゴール場内のテンションをかめた。小さなコブに置かれたラス・コンにブルーのユニフォームが光ったとき、2位に90秒の差をつけた彼の勝利は決まり、ホーム・サポーターたちや他のイタリア・チームメンバーの歓喜の渦の中へ、コラディニは走り込んでいった。

ショートディスタンス・レース

1日の休日をはさんでショート・レースがほぼ2,000mの高地で行なわれた。スキーにとっての雪のコンディションは非常に良くなったものの、主催者にとっては輸送手段が頭痛の種となった。チェーンを付けた2台のバスは、イヴェント・センターから20kmの道のりでも、林



CAMPIONATI DEL MONDO
SCI ORIENTAMENTO
VAL DI NON
31 GENNAIO - 6 FEBBRAIO 1994

中の雪道をゆっくりと進まなければならず、何とほぼ2時間もかかってしまうのである！ 風も無く寒い日であったが、この高度のところでは恐ろしく霧が濃いためゴールでの視界は15m先も見えないほどであった。この霧は競技者たちに、スピードを出して滑っている時の分岐でのミスが多いという、新たな技術的挑戦をしてきた。しかし、見ている者の興味はそがれ、観客用コントロールは見難く、ゴールからの見通しも悪かった。最後の興奮は、素晴らしい場内放送とゴールほぼ1分前の予告に委ねられた。しかし、タイム的には男子レースの標準を上回ってしまったものの、近づけるための必死の努力が生み出されていた。

女子レースでは、クラシカル・レースの上位3人はお互いスタート時刻の間隔が開くような抽選が行なわれた。結果としては、ヴィルビ・ユティライネン(フィンランド)がライバルたちを20秒も置き去り金メダルに輝いた。9番目スタートのサナ・サヴォライネンは28分ジャストの好タイムで、レース半分以上の区間同ラップを刻んだヒルダ・G・ベデルセン(ノルウェー)と銀メダルを分け合った。

ヴィクトル・コルチャギン(ロシア)は男子レースのトップにしばらく掲示されていたが、ヴィダル・ベンジャミンセンが、次走者のイタリアのルイジ・ジラルディと共に上に来た。この2人の差はたった11秒であった。そして、ニコロ・コラディニが更にトップ・タイムを84秒も縮めてゴール、この時はダブル・ゴールドになろうとは思えなかった。しかしながら、イワン・コズミンのラジオ・タ

□1994年4月3日(日)

広島県オリエンテーリング協会設立

広島オリエンテーリングクラブ発足

20周年記念大会兼 広島県大会

クラブ発足20周年の記念大会を企画したのが、一昨年5月の総会の席であった。ただちに会場探しにかかり、今はなき山本浩元クラブ員が推薦していた吉和村の汐原・頼原地区にトレインを求めるとに決定し、地元で協力をお願いすると共に、同じく設立20周年を迎える県協会に呼びかけて共催の記念大会とすることになった。

調査開始と同時に、記念大会にふさわしい内容にしたいと考え、全日本大会で連勝中の村越選手を招待して、講演会と競技に出場して貰うことを計画。たまたま昨年の全国指導者研究協議会で同席だったご本人に打診したところ、「インカレと全日本のあとなら喜んで…」というご返事。(これは昨年のインカレで広島の女子が団体優勝したため、村越さんが広島に関心を持っておられたかららしい。)

4月2日に講演会、3日に大会という日程を決定してからも、まだ1年先のこと、のんびりと構えていたが、6月に入って調査者の一人が転動することになり、加えて有力メンバーの一人も本業が忙しく(高校教師で野球部部長、夏の県大会で勝ち進んだため)なったり、蛇が出るので夏の調査は駄目という者や、少々雲行きが怪しくなってきた。あれやこれやで調査が大巾に遅れている間に12月に入ると、広島地方には珍しく初雪に見舞われる始末。今年に入ってからも1回目の試走、2次調査と現地入りする度に60~80cmの大雪、遅れに遅れて作図完了が3月9日であった。印刷所に無理をお願いし、全日本から帰るとその足で校正に向き、できあがったのが25日という、まさに綱渡りのような準備状態が続いた。翌日は早速できたてホヤホヤの地図を持って最後の試走にいったが、この日もまだ積雪は50~70cm。「これで大会が開催できるだろうか?」と心配になってきたが、「最悪の場合に備えて短縮コースも準備しておこう」と

いうことに決定、あとは天に祈るばかりであった。翌日のコース刷りには予想以上のクラブ員が集まり、「記念大会を成功させたい」というみんなの気持ちが伝わって嬉しかった。

前日のセッティングがまた大変、何しろ午後の村越さんの講演会を聞くためには午前中に作業を終えて広島に帰らなければならない。講演会が終わるとまた現地へトンボ帰り。みんな寝ているだろうことは顔を見ても分かった。

そしてよいよ大会当日。幸いにも好天が続いたのと、雨のお陰で「あの大雪はどこへいったのか」と思われるようなトレインになっていた。おまけにウィンドブレーカーの搬送係は用無しとなる一方、給水所からは「脱水状態の者が多く出るのでは?」という情報が入る程のボカボカ陽気であった。

アンケートの集計結果を見ていないので何とも言えないが、競技はトラブルもなく、また怪我人もなく無事に終了することができたと思っている。ただ、一部クラスのコースが易し過ぎたという声があったようだが、これはプランナーが雪のことを考えていた結果であった。参加者の数からいえば、決して大きな大会とは言えないが、いつもの大会とは違って多くのクラブ員が運営に携わってくれたこと、そして元クラブ員など広い地域からの参加者を迎えることができ、20周年記念にふさわしい大会であったと喜んでいる。

今回の運営で頭を痛めたことがあった。それは広島から距離的にはさほどの所でないのに、交通の便からいえばまさに過疎地であったこと。クラブ大会としては初めて会員バスの運行を計画したが直前まで大型か、マイクロバスかで悩んだ。結果的には大型定員ちょうどの利用者があってホッとした。もう一つの頭痛の種は、会場トイレの問題、地区の集会所を借りたため建物内にはトイレは1ヶ

■広島県佐伯郡吉和村

リポーター(運営) 三好 正夫(広島OLC)
(参加) 財間 定義(島根OC)

所しもなく、やむを得ず近くの温泉旅館へトイレ使用をお願いしたところ、「どうぞ…」ということになったが、参加者の皆さんには不便をかけたと思う。二つの問題とも4年後の全日本大会の際の重要な課題であろう。

このようにいろいろあった今回の運営であったが、記念講演会も準備した椅子が足りなくなる程の人が参加して熱心に耳を傾けてくれ、また村越さんの提案による競技終了後のルート解説の場にも多くの人が残って目を輝かせながら聞き入っていたのが印象的だった。帰りのバス見送りの時、窓から手を振ってくれた遠来の参加者の笑顔が今でも浮かんでくる。

この場を借りて、招待に応じてくださった村越、鹿島田両選手をはじめ、はるばる遠くから参加していただいた方々と、協力してくださった村や教委、さらには警察、消防といった地元の方々にも心よりお礼を申し上げます。

後日談……トレインの一部に使用させてもらった地元の林業組合に、「素人の私たちにできるような山の作業があったらお手伝いしますよ」と申し入れをしていたところ、先日「雪おこし」という作業が急ぐので、10人程手伝いに来てもらえないか」という要請があった。クラブとしては「今後も気持ちよく山を利用させてもらい、環境保護の面からも我々に役に立つことがあれば協力しよう」という方針でいたので、早速、みんなに連絡をとったところたちまちメンバーが揃い、4月24日にお手伝いすることになった。これがキッカケとなって、より一層クラブと地元との交流が深まり、ひいてはオリエンテーリングというスポーツを地域の皆様に、より良く理解していただく引き金になればと張り切っている。

機会があれば、この時の様子をまた皆様にお知らせしたいと思っています。

[以上、三好]

◇4/3・新年度最初の日曜日。

温暖・好天に恵まれた。

◇テレインは「西中国山地国定公園」内の吉和村。村内面積の95%が山林。人口は広島県内最少という。沢の部分には、残雪が伺われた。

マップは、A4判・1/15,000・コンター5m。特に中央部分の斜度は厳しめであったが、通行困難な箇所は20%未満・技術的な要素を多く組み込んだコースセットがなされ好評。

ゴール後、隣接地の「うしお原温泉」が利用でき、これまた大好評!

◇県境・僻地の地とて、トリムグループは少数(17組⇔65人)。個人クラスも、「村越・鹿島田の頂上対決」などの魅力があったにもかかわらず135人と多くはなかった。

個人Aクラス以上の“上位入賞者”は---

ME・7,800m / 350m

- ① 1.16.08 村越 真 (静岡OLC)
- ② 1.29.12 鹿島田浩二 (東京OLC)
- ③ 1.46.14 宮林 正樹 (松阪OLC)

MA・6,000m

- ① 1.27.57 城森 博幸 (OLP 兵庫)
- ② 1.29.29 綿貫 徹 (OLC レオ)
- ③ 1.32.11 愛場 庸雅 (OLC レオ)

M35A・5,100m

- ① 1.08.11 平島 俊次 (京都OLC)
- ② 1.18.32 堀江 康博 (福山OLC)
- ③ 1.19.06 石賀 敏 (鳥取OLC)

M18A・5,100m / 220m

- ① 1.39.38 軍場 康弘 (山口大OLC)
- ② 2.00.19 浜本 宏之 (山口大OLC)
- ③ 2.08.33 米村理一郎 (山口大OLC)

M45A・3,500m

- ① 43.49 谷口 直夫 (OLP 兵庫)
- ② 49.03 伊東洋一郎 (OLC 吉備路)
- ③ 56.38 尾和 薫 (三河OLC)

M55A・3,500m

- ① 57.39 池田 忠士 (OLC 吉備路)
- ② 1.00.53 辻村 修 (コナテ)
- ③ 1.01.18 笠井 泰自 (奈良OLC)

WA・5,100m / 220m

- ① 1.11.18 金子しのぶ (ワグネ)
- ② 1.20.53 植田 佳子 (広島大OLC)
- ③ 1.33.32 石黒 佳子 (福山OLC)

W18A・3,000m

- ① 1.03.47 堀口 千鶴 (OLC 吉備路)
- ② 1.43.30 本川 怜美 (河内町)

W35A・3,000m

- ① 55.39 吉岡 康子 (OLC 吉備路)

W45A・3,000m

- ① 53.26 池田 富子 (大阪OLC)
- ② 1.33.20 井上 直子 (北九州OLC)

まどかの大会参加記

風はまだ冷たいですが、天気は晴れ。AM7:30ごろの近鉄電車に乗り、奈良県平城山丘陵へ。駅からバスで目的地まで向かっていると、歩道を歩くK原さんの姿をみんなで発見!

始発のバスに乗るため早起きした私は、まだまだ目がはつきりしません。ポストの位置を確認した後に、部屋でござろしてました。この日は珍しく低血圧。

スタート地点に着くと、妙に緊張したしたのでまいりました。目をつぶって願うことはたつた一つ。はたから見ると、精神統一をしているとしか見えなかったかもしれません。でも私の心の中は、(どうか迷わずに無事に帰ってこれますように。持ってきたお弁当🍱をお昼ごろ食べれますように。けがをしませんように)。地図から飛び出しませんように)

AM10:15にスタート。初めてBクラス(今回は5500m)に参加したので、緊張緊張。一分前に地図をもらう。普通は地図をもらってから、全体の地形を確認して、全ポストの配置をさっと見ます。しかし私は、「ええっと、三角印は〜……ああ、あった!」

【奈良県OL選手権大会】

それだけで確認終わり(おいおい)。私と同時に出発する人が一人もいなくて、孤独に出発。三角まで300mはテープ誘導なので楽勝。



第1ポストは32番、切り開きの分岐地点。

「えっ、切り開きってなんだったっけ?」突如、思考回路が停止。スタート前に母親に尋ねたが、そのことさえも忘れてしまい、一人で焦る。しかし、もちまのいい加減で爆走。舗装された道路のほうを走る。誰も走っている人を見かけないので不安になりながら、ポストを探す。無事発見!その時に、大きな鳥が羽ばたく音を聞く。鷲か鷹か、何だったのでしょうか。

第2ポスト、34番で櫛の北東の角。第1ポストから一緒だった男の子と道順が同じ。池の横の小道を上り、見つける。

第3ポストは41番で櫛の北西の角。元気よく走っていると母親に会う。その

黒木まどか(豊中OLC)

まま抜いて走っていると、後ろから母の大声が、

「まどちゃ〜ん」

焦って後ろを振り向くと母の姿がない。地図で位置確認をして、慌てて戻る。そうです。私の十八番、また暴走してしまっていたのです。

ポストでパンチをしながら、母に礼を言ってから第4ポストへ。

次は43番、小道の分岐。どうやってたどり着いたのか余り覚えていないので、無事に行けたのでしょうか。多分…。

第5ポスト。49番、道の分岐、通信ポスト。線路に沿っていくのが近道だと思い、森のようなところに入って行こうとすると、畑にいたおばさん3人ほどが「自信のない人は、迷うから入らないほうがいいって言うってたよ」

思わず、「えっ」

結局その人達に「行く」と言ってから出発。応援してくれる声を後に、森へ突入。常に線路に沿う形を取るように気にしながら進む。途中、生木をバキバキ折る。野バラのとげがチクチク刺さる。跳ね返ってきた枝で、顔をしがたま叩かれる。何度か尻もちをつく。このような苦



難が第9ポストまで続く。

第6ポストは47番。2×1.5の小さな凹地。探している途中でN田さんに会い、一緒に探す。(へへっ、助かったぜ)

第7ポストは46番の道の分岐。あっさり見つかる。

第8ポスト、45番の小さなこぶの上部。人がいたので見つかる。

第9ポストは44番、凹地の南東のふち。道に出ないでそのまま等高線上をゆく。N田さんの後ろを行っている、枝がはねかえってきて目玉に直撃!

(い、痛い……)

ようやく見付き、道に出ようとして足を踏み出した途端、足元の感覚が変。

「もしかして……!」

全日本でもこの感覚は味わった。グブグブと言いながら私の足が沈んでいく。

「ヒザええ〜っ」

黒木まどか、湿地帯にはまる。

五歩ほど歩いて湿地帯から出ると、お

次は折れた枝が絨毯のように重なっている場所に出る。左手に先ほど入っていった道があるのに、どうやらそちらには出なかったらしい。

N田さんとぎゃあぎゃあ言いながら、バキバキと枝の上を突き進む。途中足が抜けずに体勢を崩してしまい、倒れる。

美しいまでの道に出て走る。しかし、靴の中がグチュグチュと気持ち悪い音を立てます。さっき、湿地に足を取られたせいでしょう。

(くっ、靴が重いっ)

第10ポストは63番、2×2の小さな凹地。ここから私の苦悩は始まりました。建物の横を走っていると、I田さんが横の坂道を歩いています。N田さんはガードレールを乗り越えて、その後を歩きました。

「ああ、こっちなんだ」

何も考えず、地図で確認したにもかかわらず、私達は地図を飛び出してしまったのです。工事中の広場をえっちらおっち

ら上っていくと、男の人が一人降りてきました。30〜40分程ロスをして悔しくなりながら、もと来た道に戻りました。だいたい進んでから、やっと目的地へ。崖の下のほうにポストを発見したので慌てて駆け降りてみると、62番のポスト。63番のポストは上にあったのです。

ちくしょう〜、まんまと罠に引っ掛かってしまった。

気を取り直して、第11ポストは65番の橋の上。ひたすら走って発見!

第12ポスト、Mの道の分岐。競技場の横を走って見つける。ただ走らせるだけのポストです。

足が痙攣を起こしながら、ようやくゴール!

ゴールでもらったボカリスエットはとってもおいしかったです。

無事、お弁当(笑)を食べられて良かったし、ケーキセットや巻も食べれたし、上機嫌で家に帰りました。

皆様 お疲れ様でした。

第4回

奈良県オリエンテーリング選手権大会

兼近畿地区交流オリエンテーリング祭

1994(H6)年3月21日(祝)

奈良県オリエンテーリング協会



<書籍紹介>

村越真の

実践オリエンテーリング講座

オリエンテーリングの教科書とも言うべき本が発行されましたので紹介します。『村越真の実践オリエンテーリング講座』（B5判・130余頁）です。著者は言わずと知れた全日本チャンピオン村越真氏、発行は日本オリエンテーリング協会です。

この本は、

序章 オリエンテーリングとは

第1章 C/Nクラス 走れるようになるまで

第2章 Bクラス うまく走るために

第3章 Aクラス より速く走るために

第4章 Eクラス より広い世界へ

の5つの章から構成されています。

この本がこれまでにあったものと異なりユニークなのは、単なる入門書でも技術書でもない点です。章だてを見ると技術書のように見えますが、さにあらず。第1章では初心者向けに基本的な地図の読み方に加え、実際の大会参加についても紹介しています。大会情報の入手方法やレース後の時間の過ごし方など、初心者には分かりにくいことをしっかりフォローしており、経験者の説明なしにこの本からの知識だけで初心者が大会に参加できることを狙っているようです。第2章では一般的なOL技術の紹介と解説があります。

そして、この本のまさに圧巻というべきは第3章でしょう。ひととおりの知識と技術を身につけたオリエンティアのための体方面・技術面・心理面のトレーニングについて解説しています。体方面では保健体育の教科書かしら？と思うような運動生理の基礎的知識から、トレーニング計画の立て方、実際のトレーニングの方法までを広く紹介しています。故障しないためのストレッチングの図解説明も分かりやすく、簡潔です。また、大会で十分に実力を引き出すための心理面のトレーニング、レース前日からレース中における行動の仕方・考え方についてのアドバイスは、著者が日本のOL界の第一人者であり、かつ体育心理学の専門家という余りにも大きな裏付けがあるだけになおさら説得力があります。

最終章の第4章では日本と世界におけるOLの歴史の紹介し、そして著者自身の歩んできたOL人生を紹介することでエリート選手へのエールを贈っています。

全体を通して図や写真が多用され、言葉も分かりやすく、最新の情報・考え方も取り入れながら、OL全体を網羅している。まさに「教科書」と位置づけられます。活字文字も美しく、これだけ写真を使うとかなりのコストがかかっていると思われるのですが、一冊1200円。買うしかありません。



<入手方法>

大きなOL大会の会場で販売します。また、通信販売をご希望の方はまず下記までお問い合わせください。

価格は、1冊1200円（10冊以上は、1冊1000円）

— 問い合わせ・購入申込み —

〒424 清水市折戸1-20-11-31 村越 真

TEL 0543-34-9754

香港ジュニア合宿への援助のお願い

8月の2～8日にかけて、香港のジュニアたちがトレーニングのため来日します。

APOC92で走った『ふじ』に代表されるトレインは、彼らにとって私達が北欧に対して抱くのと同様の憧れのトレインです。91年以来希望していたものの、一番大きな障害は金銭面でした。これも日本のいくつかのクラブの御支援によって解決しつつあります。現在のところ、大阪OLC、静岡大OLC、トータスOLC、ノルディック・スポーツより援助の申し出をいただいておりますが、スタッフやその財政的裏付けという点ではまだ十分なものではありません。

アジアにおけるOLのリーダー的役割を果たすために、また将来につながる国際交流の場を作るためにも皆さんの人的・物質的御援助をお願いします。

お問い合わせは、0298-53-9972または、0543-34-9754（村越 真）までお願いします。

森の豆知識 ②

水戸OLC 佐藤 征男

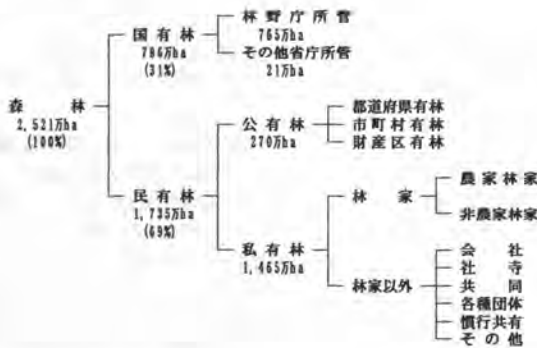
2. 森林の所有者

日本の森林面積を森林所有者ごとに区分すると、国有林と民有林に、大きく区分されます。

国有林は、林野庁所管の国有林（営林局、営林署、森林事務所などが管理にあっております。）が97%と大部分を占めております。他に文部省所管の国立大学演習林や防衛庁所管の自衛隊演習場の森林などもあります。

民有林は、公有林と言って都道府県有林や市町村有林、財産区有林などが15%、私有林と言って個人や会社などの法人有林が85%を占めております。この私有林は、さらに林家と林家以外の所有者に分けることができます。これらをわかりやすく図示すると次のようになります。

〔森林の所有形態〕



このように、日本の森林は多くの所有区分に分かれております。森林面積をその所有形態の視点から見ますと、私有林は、わが国の全森林面積2,521万haの58%、さらに民有林1,735万haの84%を占めるわが国最大の森林所有集団と言えます。

しかし、私有林でありますから単一の経営体であります国有林や、限られた経営体で比較的大きな面積を所有する公有林とは異なって250万9千の林家並びに35万4千の林家以外の林業事業体など多くの所有者からなり、その性格も様々であります。

この私有林について、在村者（森林所有者で森林の所在する市町村の区域に居住しているか、または事業所を置いているもの）不在村者別に保有する森林面積を見てみると、1970年の在村者は85%であったが1990年の調査によると78%に減少しております。

このことは、不在村者の中には、1970年代から80年代にかけて続いた土地ブームの中で、林業経営に関係なく土地投機目的あるいは、リゾート開発など他の土地利用の転用等を考えて、購入した個人または会社なども増えていることとなります。

いずれにいたしましても、不在村者の面積が増えていることは、林業の不振を裏付けていることとなります。

なお、民有林の所有山林規模を見ると5%未満の所有者は89%となり、中でも

1%未満の小規模所有者が60%に達しております。このことから明白なように、私有林の森林所有者は極めて零細な所有構造となっております。森林の所有面積が零細で、かつ分散していることは、山仕事に従事する世帯員の減少を伴うことになり、ここでも林業従事者数の減少を示すことになったと言えます。

これは、同時にOL大会開催に先立つ地図調査や大会準備にあたって、森林への立入りなどのため、森林所有者の同意を得ることが年々困難になってきているばかりでなく、森林所有者を特定すること自体難しい状況になっております。



用語の説明

◆国有林

国が所有する森林の総称ですが、大部分は国有林野事業に属し、林野庁（営林局、営林署、森林事務所）に所属しているが、この他に文部省所管の国立大学演習林などがあります。

◆民有林

国有林に対する語である。民有林は個人、会社、社寺など法人で所有する私有林と都道府県、市町村、財産区で所有する公有林および森林開発団所有林に区分されます。

◆財産区有林

市町村および特別区の一部で、財産を所有する特別地方公共団体を財産区といいます。合併前の旧市町村単位で山林を経営するケースが多いが、これを財産区有林といいます。

◆林家

所有山林または所有山林以外の保有山林が10a以上の世帯をいいます。統計用語であり、1990年世界農林業センサスによれば、日本の林家数は250万9千戸あります。

◆不在村森林所有者

自分の森林の所在する市町村の区域に居住していない森林所有者をいいます。

パーマポイントコース



りぼへと

□1994年1月8日(土)
岐阜県 No.1 ~大高 94-1 ~
「**岐阜城**」

[距離] 8.5 km
[ポスト数] 10本 PC-0-MAP

一昨年郵政省の補助金でコースが新しくなり、スタート地点が「岩戸公園」から「梅林公園」に変更された。交通機関は様々だが、私は「新岐阜」のバスターミナルから「せき東山」行きに乗り、「金園町八丁目」で下車し、西に5分程歩いた。「金園町八丁目」を通るバスは他にもある。また、名鉄の市内電車に乗り、「梅林」停留所で降りても近い。「梅林公園」には、何も掲示されていない案内板があるだけで、マップとマスターマップは山の上の「岐阜ユースホテル」にある。スタート地点からユースホテルまでは遊歩道を辿ると15分程で着くが、その途中に①、YH横に②があるので、取りあえず地図無しでスタートし、②以降は地図を頼りに回ると時間の節約ができる。⑤は金華山山頂で岐阜城の天守閣がある。ここまでの上り坂は長くきつい。ただ、麓からロープウェイがあるので多くの観光客で賑わっていた。大変な思いをして登ってきたのに、⑥の「岐阜公園」へは一気に下ってしまう。ルートは2通りで、急峻な「馬の背登山道」と、迂回する「瞑想の小径」がある。「馬の背登山道」は非常に厳しいルートなので、家族連れなどにはお薦めできない。⑦⑧⑨は再び山に入り、整備されている遊歩道を歩く。⑩は「粕森公園」。それほど難しくはないが、登りも下りもハードな健脚向きのコース。
(岐阜ユースホテル
☎0582-63-6631)



□1994年1月8日(土)
岐阜県 No.9 ~大高 94-2 ~
「**百年公園**」

[距離] 6.5 km
[ポスト数] 15本 PC-0-MAP

名鉄美濃線「小屋名」駅または新岐阜より、バス「せき東山」行きで「小屋名」下車、徒歩10分。百年公園北口にある管理事務所にマップがある。マスターマップは入口近くにあり明瞭。ただ、円の中が塗りつぶされており、中心が分かりにくい。15ポストあり、以前はフリーポイント形式だったようだが、現在は回り順が指定されている。ポストは一昨年更新され新品。園内の道はよく整備されていて分かり易く、迷うようなところはない。⑤から⑦の途中までは道が拡張され舗装道路となっている。⑧へ向かう際に通るピーク越えの少径だけはやや不明瞭。15時14分にスタートしたが閉園の17時には楽々間に合った。初心者にはうってつけの好条件のコース。
(百年公園管理事務所
☎0575-28-2166)

□1994年1月9日(日)
愛知県 No.3 ~大高 94-3 ~
「**尾張三山**」

[距離] 10 km
[ポスト数] 9本 PC-0-MAP

名鉄小牧線「羽黒」駅下車。駅前の山崎パンにマップとマスターマップがある。外の案内板のマスターマップは判読不能。マップは昭和62年4月~63年1月に調査されたもの。このコースは、ご存じの方も多いと思うが、昭和52年に小学館より刊行された『オリエンテーリング入門』の中で「劇画OL挑戦物語 これがオリエンテーリングだ」という漫画で紹介されたコースである。尾張三山のうち「尾張本宮山」と「尾張富士」を踏破し、その途中には「入鹿池」や「明治村」がある。20年以上前に設置されたコースであるが、当時のポストが現在でも使われている。⑤は頭部のみ置かれていたが、全ポスト健在であった。①は漫画

のなかで掃除するシーンがあり、そのせいかどうか分からないが非常に綺麗で、20年という年月が嘘のよう。⑤の少し先に天然記念物「ヒトツバタゴ(別名=ナンジャモンジャ)」の自生地がある。⑦は道から奥に入っているのを見逃し注意。⑧へ向かう際通る尾張富士の参道には献石が積まれている。⑧は参道から外れた小道の分岐にある。⑨は上記書の表紙になっているポストである。ゴールまでは桜並木が続いている。漫画のなかのシーンと実際の風景が今でもほとんど変わっていないのは驚きであった。
(大山市教育委員会市民体育課
☎0568-61-1800)

□1994年1月30日(日)
静岡県 No.13 ~大高 94-4 ~
「**奥大井B**」

[距離] 8 km
[ポスト数] 11本 PC-0-MAP

□1994年3月27日(日)
静岡県 No.12 ~大高 94-7 ~
「**奥大井A**」

[距離] 9.5 km
[ポスト数] 11本 PC-0-MAP

大井川鉄道「千頭」駅下車。駅前でスタート地点で案内板があるが、マスターマップの掲示はされていない。駅窓口でマップを求めると、使い古しのものが数枚残っているだけとのこと、仕方なくそれを頂くことにした。いずれも書き込みがされていたが、しっかりとしたPCコース図が記入されたものはなく、マスターの控えもないとのこと、今回も富田さんより頂いたコピーマップから転記した。最近を訪れる人もなく、コースは3年程放置されたままという。A・B2コースあり、各11ポストあるが、実に7つが共通で大半が同じルートを辿ることになる。大井川沿いの山裾を歩くコースで、ほとんどが舗装道路であり、至って易しい。2度大井川を渡るのだが、最初は両国吊り橋という、人がやっと行き違えるくらいの吊り橋を渡ることになる。15あるポストはかなりの老朽化したものや、倒れてしまっているものもあったが、全て健在であった。大井川鉄道では利用者の減少からOLに対する熱意をすっかり失っており、マップの増刷やコー

整備の予定は全くないようである。本川根町産業課にもマップはないそうなので、このままコースは廃れていってしまうのだろうか。良い雰囲気のコースなのに大変残念である。マップをお持ちで未踏破の方は今のうちに回ってしまったほうがよい。

(大井川鉄道 ☎05474-5-4111)

□1994年1月30日(日)
静岡県 No.20 ~大高 94-5 ~
「中川川根」

[距離] 8 km
[ポスト数] 10本 PC・0-MAP

大井川鉄道「下泉」下車。駅がスタート地点だが、案内板にマスターマップの掲示はされていない。マップとマスターは駅に置いてある。大井川に沿って南北に長いコースで、静岡らしい茶畑が多くある雰囲気の良いコース。これも利用者の減少から数年ほったらかしのように、ポストの老朽化がかなり激しい。②から真南に向かう③への最短路がよく分からず立ち往生していると、たまたま通りかかった地元の方が、崩れてしまったので行かないほうがよいと教えてくれた。出戻りで舗装道路を南下する手もあったが、ここは一旦更に登ってから尾根沿いを下ることにした。ただ、この尾根沿いを伐採のため一部通行困難であった。③へ登る小径もほとんど消えかかっている。林のなか、見当をつけていくと到達した。⑤~⑥へは気が遠くなるくらい長い吊り橋がある。ただでさえ冷や汗ものの橋なのに、この日は強風が吹き荒れており、生きた心地がしなかった。ワイヤーにつかまりながら命からならんとか渡り切った。高い所が苦手な方は、相当な覚悟が必要。⑧はマスターマップで記された道の分岐ではなく、そこから50m程北西に立っている。その他にも新しい道ができたために地図と現状が食い違っているところが数箇所あり、しっかりした地図読みが必要になる。残念なことだが、このコースもこのまま整備されずに廃れていってしまうのであろう。

(大井川鉄道 ☎05474-5-4111)

リポーター:

〒344 埼玉県春日部市武里団地5-23-503
大高 竜亮



□1994年1月15日(祝)
栃木県
「日光」 ~窪田 94-1 ~

[距離] 8.5 km
[ポスト数] 8本 PC・0-MAP

■地図取扱所/日光市体育館事務室。JR「日光」駅から南西に約300m右手。マスターマップ/体育館入口に掲示板、掲示板は北向きで、コース記号は明瞭。マップ/縮尺 1:10,000のPC用0-MAP、一部200円。調査期間1992.10 ~ 1993.02 栃木県オリエンテーリング協会作成。

去年の3月に訪れた時には行政図を流用した暫定的なマップを入手したが、コースを回る時間が無かった。今回は新マップができていた。調査期間が新しいのでマップの精度はほぼ100%である。(ポスト④と⑤の間にある水車小屋の記載が無い程度)

①へは駅の北・南いずれを回っても同じ位。今回は北側を回った。ポストは全て良好。この日はポスト⑥から日光山内の社寺に参拝し、帰りに⑦、⑧を経由した。

コースの途中、随所から男体山およびその東に連なる冠雪の山々が眺められ、良き伴侶となった。③の南には東屋があり、休息できる。この日は降り積もった雪の斜面で子供たちが雪遊びを楽しんでいた。⑤と⑥の間にある日光小学校の正面入口には珍しく二宮尊徳の像があり、50年前の小学校の面影が残っていた。①から⑥までの間に、出会ったのは数人。日光山内も祭日にもかかわらず、春の平日よりずっと人出が少なく、これが日光かと暫し疑うほどであった。寒い一日であったが、約6時間をかけ、ゆったりとして充実感があった。コースだけなら2時間もあれば回れる。家族向きの易しくて良いコースである。

リポーター:

〒191 東京都日野市多摩平 5-2-43
窪田 宏明

□1994年2月2日(水)
大阪府 No.5 ~室井 94-1 ~
「茨木 竜王山」

[距離] 12 km
[ポスト数] 8本 PC・0-MAP

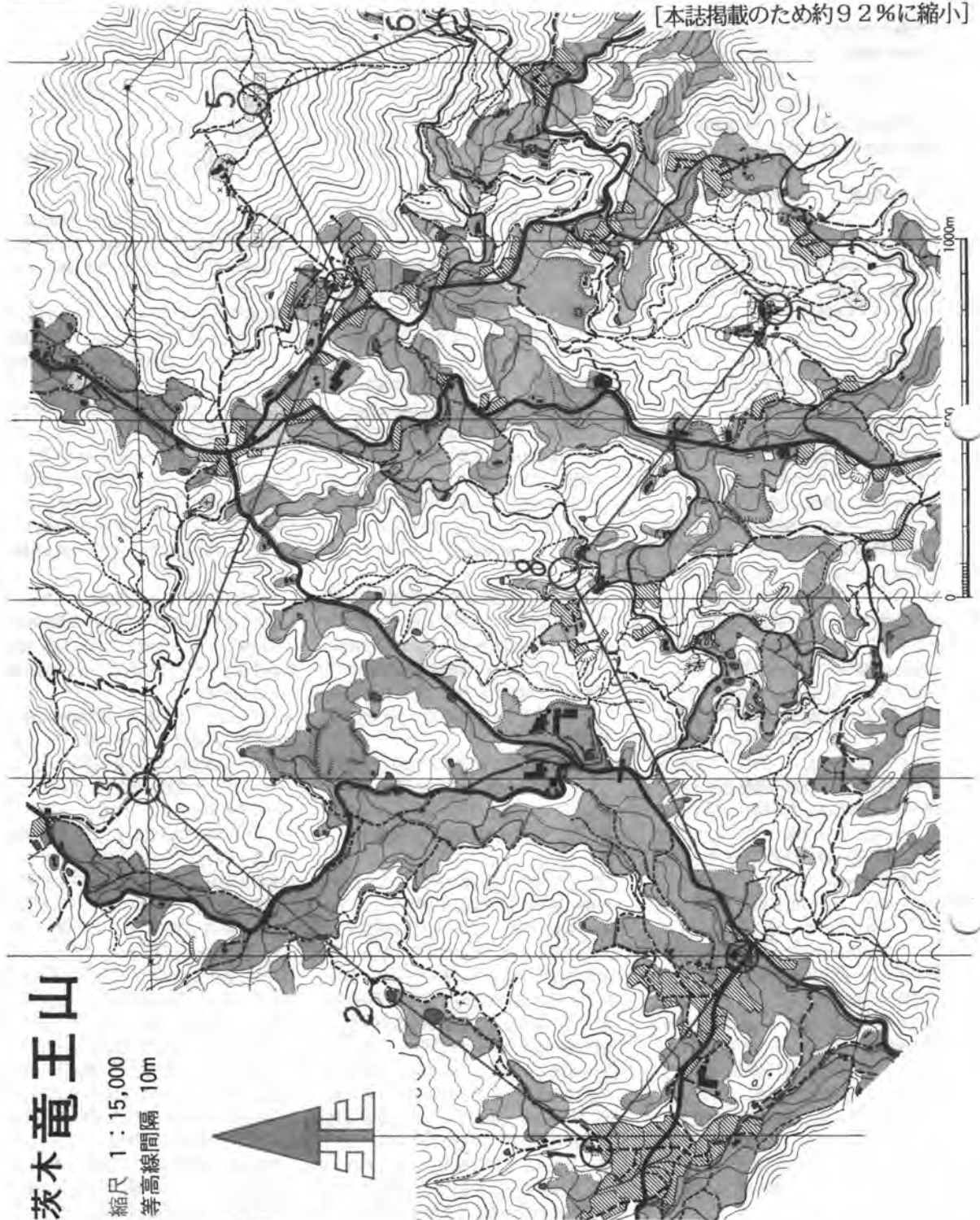
■スタート地点/清溪(きよたに)出張所前
■利用交通機関/阪急電車・JR「茨木」駅から阪急バス忍頂寺線『余野行』行きで『泉原』下車。
■地図取扱所/中谷商店・〒568 茨木市泉原4-5 ☎0726-49-2603/木下商店 〒568 茨木市泉原4-1 ☎0726-49-2045

狩猟シーズン終了を待ちかね、何年ぶりの「竜王山」コースを走って見た。このコースは私が昭和52年に「オリエンテーリング」なるものを初めて体験した思い出のコースでもあるのだが、その折り返しでグループを組み山の中に入って行った時の心細かったことが今は懐かしく思い出される。

当時は時間的にも金銭的にも(因に当時の3級指導員養成講習会の受講費用は参加費合計 ¥21,000也*当時の額)余裕が無く、一次講習を受けただけで途中断念したのだった。

さてスタートは清溪出張所前の道路・府道豊中亀岡線沿いに西に向かう。左に消防の火の見櫓のある道と道路の交差を北に曲がって直進、突き当たりの神社鳥居の西側に①のポストはあり、ポストマークの状態は良好である。②へは鳥居前の道(東海自然歩道)を北東にしばらく進むと両側に田圃が開ける。その東海自然歩道なりに行き、中程で「右・妙見山」の石碑が路肩に見える小道の分岐を、左の東海自然歩道の方に進むと田圃の奥に溜め池が見えてくる。②はその溜め池の北東側の楡林の中にある。状態は良好。このコースは、マップにも記入されているが、東海自然歩道に沿ってコース設定されているのだが、地道が少なく自然歩道ではなく人工歩道に変わっていたのが残念だ。③へは、今辿って来た小道を北に向かって進むと府道茨木能勢線に出る。この道路を渡って既に舗装されている田圃の中の小道を進むのだが、この道路を渡る時は、けっこう自動車、特にダンプの通行量が多いので注意を要する。田圃の中を過ぎて林の中の道に入り直ぐ右方向に進む。進みつつ仰ぎ見ると送電線の鉄塔が目に入る。③はその鉄塔を通り過ぎた道沿いにある。

[本誌掲載のため約92%に縮小]



茨木竜王山

縮尺 1 : 15,000
等高線間隔 10m

このコースの特徴と注意事項

北攝山系にひととき高い竜王山の麓には、東海自然歩道と茨木自然歩道が通り、四季を通じて澄んだ空気と土の香りに親しみながらハイキングが楽しめます。そして変化に富んだ地形はオリエンテーリングゲレンデとしても最適で、いままで経験者にも初心者にも満足されるコースがつけられてきました。このコース内にある忍頂寺は、約1,100年前に建てられたもので、境内の五輪塔は大阪府文化財に指定され、またこの地は高山右近により広められたキリスト教が、徳川幕府の禁教令により隠れキリタンとして約300年守られてきたところで、貴重な資料や遺宝が千提寺にある旧家に保存されています。なお、11月から2月の狩猟期間はハンターに注意して下さい。

④へは、府道に突き当たるまでそのまま進む。突き当たった所に茨木市忍頂寺スポーツ公園竜王山荘という施設ができていて判りやすい。そこから左に行くと直ぐ信号のある三叉路に出る。そこを右に折れて直ぐ道は二つに分かれているので、府道 109号を進む。忍頂寺小学校前から左に入ると突き当たりに忍頂寺(寿命院)があり、④はその境内の南側にあ

る。ここから竜王山山頂へ登る標識には「竜王山自然歩道」とあった。この道はその名の通り自然その儘の道が残されていた。山頂の少し手前で再び東海自然歩道に合流するが、ここもコンクリートで舗装されている。その舗装された道に出て右に行くと竜の骨が秘蔵されていると云う彼の有名な「八大龍王大権現」の境内に出る。境内に向かって右端に山頂に続く小径への入り口があるが木陰になっていて見えにくい。山頂に到着したらそのまま進むと広場の北北東角に⑤がある。山頂には展望台があって、そこからは遙か東大阪市街や生駒連山の 180° の素晴らしい展望が楽しめる。

⑥へは展望台東側にある標識の車作方向に尾根を下る。下りきった所の道は変形四叉路になっているので少しややこしいが、ポストは四叉路に出た地点から近いので見つけるのに時間はかからない。⑥-⑦は、このコースの中でも選べるルートが複数あって、各自の能力と判断次第でタイムが大きく左右されるし、ある程度の地図読みができなければ目的のポストに到達するのがなかなか難しい所でもある。

余談になるが、このグレンデは前述の通り狩猟シーズンにはハンターをよく見かけるほど付近にはキジ・山鳥等が多く生息しているので、山菜採りシーズンにはそこ此処でキジの声を聞くこともできるし、時には歩いている足元から突然飛び立ち、驚かされることもある。また、府道沿いにキジ肉やキジの剥製を専門に売っている商店もある程だ。

経験者の場合は道路を辿り小道や小径を走るのがベストだが、小径を正確に読んで時間稼ぎをすることも可能だから、それは各自の判断次第である。

⑦はお寺の境内の様な場所の入り口にある。最終ポストの⑧へは、西側にある府道に出て北上し、道路の西側に天満宮と彫られた石の鳥居がある道路を西に入る。ここが有名な隠れキリシタンの里。現在は資料館ができており、走った後でゆっくり見学するのも良いかも…。⑧は

この村落の北東側にある天満宮境内から裏山方向に抜ける小径の西側にある。

ここまでのコース上のポストは全て良好な状態に保たれ不備な点は無い。マスターマップのコース記号は、他のコース同様にかすかな痕跡だけが残っている状態だったが、できるなら年に3回、少なくとも2回は交換できればと思う。

リポーター：
〒569 大阪府高槻市大知町 3-5
室井 孝介

□1994年2月28日(月)
茨城県

「鹿島」～吉田 94-1～

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP

東京駅からJR総武本線・鹿島線の特急なら1時間45分で、また東京駅八重洲北口発の高速バスなら1時間半で、「鹿島神宮」駅に着く。同駅からはタクシーで10分でスタート地点の「鹿島ハイツ」である。フロントにマスターマップと1986年(昭和61年)作成の1:20,000のマップがあり、一枚 100円で買える。マスターマップに⑥と⑧は×印がついているが、無くなってしまったこれらのポストを通るコース選択が難題である。各ポストはかなり小型である。③の北側の道路は立派に舗装されている。④の近くには剣豪・塚原卜伝の墓碑がある。⑤は頭部が落下していた。⑥の手前は道が地図とは少し違っている。⑥があった筈の地点あたりから、道はしっかりして来る。⑦は綺麗な芝生が出てきて、その左側の道を行くと見えてくる。コース中、所々にゴミが捨てられ、⑨の直前からは、それを防ぐためであろう柵が道の左側に施され、⑨はそのゴミの山の手前に柵の中に倒れていた。⑨を過ぎると、グランドキャニオンみたいな大規模な土砂採掘場が右下に現われ、昔のポスト(記号はY)が立っている所を左折し道を下ると、田んぼに出る。距離と方位を慎重に確認すると、田んぼの中を北上する細い踏み跡が発見できる。⑩からは南下して、墓地手前を右折する小径を西に向かうとスタート地点に戻る。霞ヶ浦の東にある北浦が眺められる、のんびりしたコースである。以上時計の逆回りで1周3時間弱。
(鹿島ハイツ ☎0299-82-7941)

□1994年4月9日(土)

茨城県

「刃可湊」～吉田 94-2～

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC-O-MAP

このコースについては、既に本誌上でリポートされている(木佐木輝雄氏・1990年11月号、富田 徹氏・1991年7月号)が、昨年全ポストを整備し直したとのことなので歩いてみた。マップ(1:15,000)は1984-5年製なので、新道ができて少し変更箇所があるが、ポストは小さいながら、全て綺麗で健在であった。JR常磐線「勝田」駅で茨城交通「阿字ヶ浦」行きに乗り換え、「那珂湊」駅下車。駅を背に50m直進して大通りを左折、100mでまた左折し、1km先の中学校前を左折300mで「那珂湊市民体育館」である。窓口マップ(無料)とマスターマップがある。市民体育館から北上する地図上の道は、綺麗な歩道のある直線道路に変わった。途中、清掃工場等への新道が東西に2本走っているのを越して①へ、ビール麦(二条大麦)畑を越して②へ行く。②から120mで、地図に無い小径を北東に入って③へ少し近道をした。のどかな畑の間を鳥の声を聞きながら、笹の草叢の終りにある⑤まで歩いた。その先から太平洋が現われ、⑥「姥のふところ」「国木田独歩碑」、⑦「水門帰帆」、⑧「湊公園」と海が輝いていた。那珂湊一高裏の⑨は「反射炉」で、⑩は正徳寺の大きな門すぐの東側の植込みにあった。渡り鳥の楽園「名平洞」という池の南側の新道を通してスタート地点に戻った。マスターマップに「予定時間3時間10分」とあったが、ピッタリその時間で廻れた。⑦と⑧の間の市内大通りにあった大きな魚屋兼海産物屋ではとても安い買い物があった。

(那珂湊市教育委員会体育課
☎0292-65-9193
那珂湊市民体育館 ☎0292-63-6635)

リポーター：
〒272 千葉県市川市北方町 4-1844

吉田 勉
TEL. 0473-39-2257



[平成6年 3月27日 制定 ・ 平成7年4月1日 施行]
 の日本オリエンテーリング競技規則がJ O A競技専門委員会委員
 長の森田輝雄氏から送られてきました。本誌では数回に分けて
 掲載いたします。 編集 部

I O F オリエンテーリング基本規則 (BASIC RULES for ORIENTEERING)

1. 適用 (Application)

- 1.1 本規則は、I O F加盟諸国内におけるオリエンテーリング競技について、その基本原則を定めるものである。
- 1.2 本規則の改正には、I O F総会における議決を要する。
- 1.3 規則あるいは勧告の詳細については、他のI O F規則等によるものとする。

2. 定義 (Definition)

オリエンテーリングとは、競技者が地上に表示されたいくつかの地点（コントロール）を、地図とコンパスを使用して、可能な限り短時間で走破するスポーツである。競技者とは、出場を認められた男・女の選手個人、あるいはチームをいう。

3. オリエンテーリングの形態 (Type of orienteering)

3.1 移動手段による分類

- a) フット・オリエンテーリング
- b) スキー・オリエンテーリング
- c) その他

3.2 競技の開催時刻による分類

- a) 昼間競技
- b) 夜間競技

3.3 競技の種別による分類

- a) 個人競技（競技者個人が独立して行う）
- b) リレー競技（2人以上の競技者が連続して継走する方式で行う）
- c) チーム競技（2人以上の競技者の所要時間を合計する方式で行う）
- d) 複数日競技（1競技会が複数日の競技から構成されるもので、個々の競技の合計所要時間が最終成績となる）

3.4 コントロールの通過順序による分類

- a) 指定された順番に回る競技
- b) 任意の順番に回る競技

4. クラス (Classes)

競技の形態に応じて、競技者の能力（年齢、性別、技能レベル）に基づき、適当なクラスに分割しなければならない。

5. テレイン (Terrain)

競技は、すべての競技者にとって公正なものでなければならない。土地使用についての許可は必ず得なければならない。森林所有者ならびに狩猟、自然保護などの組織および関係者の権利を尊重しなければならない。

6. 地図 (Maps)

地図は、精度や細部表現について適切で、当該競技の水準に十分に適合した地形描写をしていなければならない。現地で明らかに確認できるオリエンテーリングに有用な特徴物は、地図に記載していなければならない。

7. コース (Course)

コースは、スタート、コントロール、ゴールにより構成される。コースは、体力とオリエンテーリング技能の双方が試されるものでなければならない。

8. コース距離 (Course length)

コース距離は、対象となるクラスの特徴（性別、年齢、技能レベル）に適應したものであるとともに、トレインの難易度を考慮したものでなければならない。

9. コントロールの標識 (Control markings)

地図上に示したコントロールは、地上に明瞭に表示するとともに、競技者が通過したことを証明するための記印器具を備えておかなければならない。

10. コントロール位置説明 (Control descriptions)

コントロールの正確な位置を、コントロール位置説明で明示しなければならない。

11. スタート (Start)

競技者は指定された時刻にスタートしなければならない。スタート方式には、一斉スタート（マス・スタート）または個別スタート（タイム・スタート）がある。

12. ゴール (Finish)

ゴールラインを越えた時点で、その競技者の競技は終了する。

13. 計時 (Timing)

競技者は、スタートからゴールまでを、時間/分/秒で計時される。

14. 公正な競技 (Fairness)

14.1 競技者は、競技中、事故に遭ったときを除き、他の助力を得てはならない。ただし、教育を目的として行っているときは、この限りではない。

14.2 地図とコンパス以外の技術的補助器具や、走速度に影響を及ぼすような機器を使用してはならない。

14.3 ゴールラインを越えた後は、いかなる競技者も主催者の許可を得ることなく、競技エリア内に立ち戻ってはならない。

14.4 競技者は、自己の全責任において、競技に参加するものである。

14.5 オリエンティアのドーピング行為は、厳禁とする。

本規則は、1992年1月1日より施行されているIOF国際オリエンテーリング競技規則の基本原則である。

[4ページよりつづく]

イムはコラディニより17秒速く、ロシアとイタリアのつば競り合いがイワンの全力を振り絞ってのフィニッシュまで続いたのである。そして、結果は…タイ!

リレー競技

これはクラシカル・レースと同じ場所、雪混じりの寒い朝、しかしスカンディナヴィアの国々には有利な日に行なわれた。

女子はフィンランドがこの種目得意で呼び声が高く、第1走区からリードしたが、アニカ・ゼルの快走でスウェーデンに逆転された。最終走区でもレナ・ハセルストレムがヒルデ・G・ペデルセンを突き放し、スウェーデンが金、そしてノルウェーが銀となり、フィンランドは銅に終わった。

男子リレーはノルウェーとフィンランドが終始1・2位のレースとなり、その差は最終的に2分以上となっていた。地

元イタリアーはエンソ・マコルが第1走区で素晴らしい走りでも3位を確保、残りのメンバーも立派に戦い、全体では4位となった。しかし、後の3走区をきれいに制したロシアに銅メダルを奪われた。

□上位の成績□

[ロングディスタンス・レース]

■男子

1. Nicolò Corradini	ITA	105.58
2. Lars Lystad	NOR	107.28
3. V. Kormchtchikov	RUS	110.58
4. Harald Svergja	NOR	111.02
5. Anssi Juutilainen	FIN	111.30
6. Bjorn Akesson	SWE	111.40

■女子

1. Pepa Miloucheva	BUL	77.30
2. Virpi Juutilainen	FIN	77.45
3. Maret Vaher	EST	79.58
4. Hilde G Pedersen	NOR	80.31
5. Lena Hasselstrom	SWE	80.41
6. Annika Zell	SWE	81.19

[ショートディスタンス・レース]

■男子

1. Nicolò Corradini	ITA	42.37
1. Ivan Kuzmin	RUS	42.37
3. Vidar Benjaminen	NOR	44.01
4. Luigi Girardi	ITA	44.12
5. Bjorn Akesson	SWE	44.15
6. Victor Kortchagin	RUS	44.44

■女子

1. Virpi Juutilainen	FIN	27.40
2. Hilde G Pedersen	NOR	28.00
2. Sanna Savolainen	FIN	28.00
4. Pepa Miloucheva	BUL	28.28
5. Lena Hasselstrom	SWE	28.33
6. Arja Nuolijoa	FIN	28.55

[リレー・レース]

■男子

1. Norway	157.27	1. Sweden	106.50
2. Finland	159.36	2. Norway	108.02
3. Russia	161.52	3. Finland	115.26
4. Italy		4. Russia	
5. Sweden		5. Bulgaria	
6. Bulgaria		6. Czech Republic	

■女子

1. Sweden	106.50
2. Norway	108.02
3. Finland	115.26
4. Russia	
5. Bulgaria	
6. Czech Republic	

連絡協だより

■北信越OL連協の活動報告

および役員改選について

去る4月2日に石川県金沢市で開催された北信越OLクラブ連絡協議会の通常総会(6クラブ13名出席)の内容について、簡単にご報告させていただきます。

(平成5年度事業報告)

- ・通常総会 4月 6クラブ 18名参加
- ・連協ニュースの発行 1回 4月
- ・練習会の開催 2回 6月、12月
(6年3月予定の会は積雪で中止)
- ・OLラキング 対象 7大会/2練習会
[個人] 優勝:石井博和(新潟大) 634P
2位:袴塚 崇(金沢大) 627P
3位:藤田 弘(小松OLK) 617P
[団体] 優勝:新潟大OC 1,898P
2位:金沢大OLC 1,850P
3位:金沢OLK 1,849P

(平成6年度事業計画)

- ・通常総会 4月 6クラブ 13名参加
- ・連協ニュースの発行 6回=隔月
- ・練習会の開催 2回 12月、3月
- ・OLラキング =対象:北信越地区内で開催される8大会/2練習会
- ・サマキャブの開催 7月 富山県大山町
- ・地区O-MAP 一覧表の作成
(役員改選)=新役員=
会長:森田輝雄(金沢OLK)
副会長:土屋峰人(新潟大OC),美谷島孝(長野OLC),藤田 弘(小松OLK),林 博(三和OLC) 事務局長:山口敏夫(富山OLK) 会計:岡田洋一(富山OLK) 会計監査:小林正明(YKK OLC),喜多克仁(富山大OLC) 広報担当:山形公次(金沢大OLC) ラキング担当:宮内久光(富山OLK)

情報あれこれ

■長野県オリエンテリング協会

新年度(平成6/7年度)役員

5月7日の通常総会において、新年度役員が決定しましたので報告いたします。事務局は5月10日より下記住所に変更、また長野県内O-MAP 関係事務につきましては引き続き元木が担当いたします。ご利用になる団体の責任者の方は、1か月前までにご連絡ください。

=新役員=

会長:吉沢文雄 副会長:山崎裕英
理事長:元木 悟 事務局長:鳥川秀司
理事:美谷島 孝, 木村佳司
前沢典明, 加藤隆幸, 石川 昌

[長野県オリエンテリング協会事務局]

〒395 飯田市松尾代田 769-2
シルク荘 1-1 鳥川 秀司 気付
TEL. 0265-22-6372 (21:00 ~ 23:00)

[O-MAP 関係問合せ先]

〒399 松本市石芝 3-7-16
県職員松本寮 204号 元木 悟
TEL. 0263-28-5127 (21:00 ~ 23:00)

■大会情報・イベントリポート・FORUMへのご寄稿をお待ちいたします。みなさまのクラブ広報誌との同時掲載も、広汎で合理的なOL普及の手段となります。

編集部

O-JAPAN 発行人/田口 昭子 : 購読料
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5 : '94.4月~'95.3月 ¥3,600
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500 : (高校生以下) ¥2,400
分室=Annex TEL. 0287-77-1977 : 1部あたり頒布価格 ¥300
郵便振替口座/(番号) 00270-9-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

: 編集責任者/田口 肇
: Chief Editor: Hajime Taguchi
: Editorial Address:
: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
: Yokohama, 233 Japan